

編集者のことば

本号に収められた論文のうち10編は、大都市居住問題の総合研究チームに所属する地理学・都市計画学の研究員の研究論文である。そのすべてが、都市研究センターが設立され総合研究チームが編成されて以後の研究成果ではないし、また、研究チーム内で必ずしも満足のゆく検討を経たものでもない。したがって、論文相互の関連が十分明らかになり、全体として1つの結論が導かれるという目標にまではまだ至っているわけではない。しかし、こうして集めてみると相互の深い関連が明らかに認められ、多くのあなはあるにせよ1つのまとまりを持っているので、前都市研究センター所長（現日本女子大教授）川名吉エ門先生に総論的な論文をお願いして、この諸論文を、大都市地域の居住環境整備に関する基礎的研究と題する特集として編集することにした。総論以外を便宜のために論文の内容によって分類してみると大都市地域構造というマクロな観点から居住地の問題を追求したものが2論文、大都市周辺部のいわゆる新市街地における市街地形成のメカニズムとその計画化手法を扱ったものが4論文、既成市街地の実態と変容過程について扱ったものが3論文である。

大都市地域の居住地の形成・変容は極めてめまぐるしく、しかも全体として急速に環境悪化の傾向を強めている。この実態を把握し分析し、その要因を探ることは、大都市居住問題の総合研究にとって基礎的研究課題であるとともに、実際の居住環境整備にとっても欠くことの出来ない基礎的研究である。しかし問題は巨大であり、しかも地区ごとに様相を異にしているので、本号に収録された論文だけで問題の全領域がカバーされるなどということは有り得ないであろう。ただ、これらの論文を通じて各々の研究員がこの課題にとりくもうとしている姿勢が示され、また、どの側面のアプローチが不足しているかが明確にされる。それを基礎に、今後より一そう共同研究の成果があがって来るものと考えられる。また欠落している部分については、学内外の研究員がふえ、全研究領域が次第にカバーされてゆくことを期待したい。

かねてこの欄で言っておいたように、本号は、上記の特集のほか、他の報告と資料を一編ずつ掲載した。関係者の積極的な協力を得て、これらのものも今後充実させてゆきたいと考えている。